

諫早市教育委員会議事録

令和 5 年第 1 1 回（1 0 月定例）

令和5年第11回（10月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和5年10月25日（水）
15時30分～16時30分
- 2 場 所 諫早市役所 8階 会議室8－2
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 田島 正孝
教育総務課長 江頭 大一
学校教育課長 田上 顕二
生涯学習課長 竹島 健吾
- 5 議題
議案第18号 諫早市中学校部活動在り方等に関する方針について
議案第19号 令和5年度諫早市教育委員会表彰受賞者の決定について

1 5 時 3 0 分開会

議事録署名人の指名

山口委員と小野委員を議事録署名人に指名

議事の非公開

議案第 1 9 号については人事案件であるため非公開

議事録の承認

令和 5 年第 1 0 回（9 月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

今回は 5 つ。1 番目に「教育改革の方向性」。2 番目に「授業」。3 番目に「『英語のまち諫早』プロジェクト 力強く発信」。4 番目に「学校図書室」。それから、5 番目に「九州都市教育長協議会が沖縄の名護市で開催」という 5 つを報告したい。

まず、第 1 番目。なぜ令和の教育改革なのか。これは、九州都市教育長協議会の中で、文科省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチームリーダー 武藤 久慶（むとう ひさよし）さんの講演が行われた。講演はリモートで行われ、内容についてはレジメを皆様にお配りしているのでご覧いただきたい。私達は、目の前のいろいろな課題について考えることが多いけれども、将来どうなっていくのかという話は、非常に示唆に富んだ話である思ったので、敢え

て皆様にも紹介したいというふうに思う。

レジメに沿ってお話するが、特に教育改革の背景ということで、6つの外的トレンドがある。今、どういうことで教育改革が行われているのかということだが、「人口減少・少子高齢化」、「グローバル化」、「多様性&包摂の重視」、「デジタル化（Society 5.0）」、「変化の激しい不確実性の時代」、「人生100年時代」といったようなことで教育改革が行われていく。

人口減少が進んでおり、特に、生産年齢人口という18歳から64歳の人口が、非常に減っていくということが分かると思う。つまり、生産年齢人口が減るということは、高齢化社会の中で働いて支えている人たちが減っていくことを示している。1人当たりの労働生産性も、いつの間にかOECDの中では下位になってきている。この20年で3世代同居の割合は半減し、核家族は12ポイント、1人親世帯は40ポイント増加している。従って、家庭教育が非常に厳しくなっている。子供たちの教育においては、学校の相対的な役割が高まらざるを得ず、今まで家庭でしていたしつけ教育なども学校の役割になってしまうという捉え方である。

また、学校の小規模化が進んでおり、多様性を意図的に補充する必要がある。小学校の42.8%が適正規模以下。中学校の49.9%が適正規模以下となっていて、少子化、小規模化が進んでいるということが1つである。

2つ目、グローバル化ということ。日本企業の外国企業とのM&Aは高水準で推移している。M&Aとは合併と買収ということだが、日本企業と外国企業の合併が進んできている。それに伴って、対日直接投資が過去最高。在留外国人が22年末に307万人強で過去最高。それから、訪日外国人旅行者が非常に多く、日本人の出国者も多い。つまり、国際化、グローバル化がどんどん進んでいて、2067年に人口の1割が外国人になるとされている。15歳から64歳の生産年齢人口は、2048年には1割が外国人になる。だから、1割が外国人ということは、現在2.3%であるが、2067年には1割の10.2%が外国人になっていくというようなことである。

資料にあるが、「ソニー、EVで世界連合も視野 ホンダとの新会社核に」という話がある。自動車業界では異業種との連携が広がっており、Google（グーグル）やApple（アップル）、中国・台湾の異業種企業と繋がっていく。

3つ目に、「ダイバーシティ&インクルージョン（多様性と包摂）」ということで、持続可能な開発目標SDGsと重なるもので、「質

の高い教育をみんなに」、「貧困をなくそう」、「全ての人に健康と福祉を」、「ジェンダー平等を実現」などといったことである。

4つ目に、社会の急速なデジタル化 S o c i e t y 5 . 0 である。A I やロボットで代替しやすい職種では雇用が減少するが、代替しづらい職種、新たな技術開発を担う職種では雇用が増加する。全部が全部機械に変わっていくのではなく、新たな雇用も生まれると言われている。日本は、まだまだデジタル力が不足しており、日本のデジタル競争力は20位になっている。それから、今や仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所で I C T の活用が日常のものになっているということで、S o c i e t y 5 . 0 時代に生きる子供たちにとって、パソコン端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムである。

人生100年時代が間もなく到来する。日本は、寿命だけではなく健康寿命が世界の長寿社会になって、2007年に日本で生まれた子供は107歳まで生きる確率が50%と言われている。資料のグラフは、2007年から107年後の2114年を示しているけれども、全ての国が100歳を超えている。日本は107歳。この2014年というのは、今から91年後で、その時には100歳を超える。そうすると、これまでは学んで、働いて、そして65歳ぐらいで引退というサイクルだったのが、学んで働いて、さらに学んで働いて、またさらに学んで働いてとサイクルが増え、いつまでも働かないといけない大変な時代となる。

そして、日本でもジョブ型雇用が増加する。今までは、年功序列・終身雇用が日本の一般的な雇用形態であったが、中途採用であっても自分のスキルを生かして転職すると、それがステータスになり、スキルを持った人は転職すればするほど出世することとなる。

2番目。長崎新聞に、「理想の先生はどのような先生がいいか？」と県内の1万人の小学生、中学生、高校生、特別支援学校の子供たちに聞いた結果が掲載されていた。私たちも大体のところは把握しているのだが、“授業の教え方がわかりやすい”が小中高で断然トップであった。そして、2位が“ユーモアがある。面白い”、第3位が、“どの子供にも公平に接する”、第4位が“子供たちとのコミュニケーションが上手”であった。また、「分からないこと、調べたいことがある時はどうしていますか？」という質問では、“スマホやタブレットで調べる”が多く、“辞書で調べる”や“図書館に行き調べる”が1位ではなく、スマホやタブレットで調べているということであった。

3番目。予算要求がこれからになるので、今後の方向性ということでご理解いただければと思うが、英語のまち諫早を目指して「英

語のまち諫早プロジェクト」というものを立ち上げ、小・中学校の英語の授業の充実と、児童・生徒の英語力向上を考えている。そこで、諫早市の姉妹都市であるアメリカのアセンズ市に中学生を派遣したいというふうに考えている。これは、できれば来年度から行くことができないかなと思っているが、それが難しいようであれば再来年度からということで準備を今進めているところである。

それから、イングリッシュキャンプやスピーチコンテストの充実と、県教委が指定する英語新規事業「Believe you can」の「グローバル人材育成事業」を実施し、明峰中学校に拠点を置いて発信をしていく。また、教育委員会の中にALTのいろいろなお世話をしたり、指導内容についても助言をしてもらったりする日本人のALTコーディネーターの配置と、10名いるALTの中からスーパーアドバイザーを指名して、より充実した英語教育に取り組んでいきたいと思っている。

4番目、学校図書室について。一般的に諫早は「図書館のまち諫早」というふうに言われ、図書館は非常に充実しているけれども、学校図書室はどうなのかということなのだが、42の全小・中学校に学校図書室を設置している。全国的には図書室がない学校もあるように聞いているが、諫早市は全ての学校に図書室を完備しており、図書補助員として会計年度任用職員を任用している。そして、法令で決まっていることだが、12学級以上の学校には司書教諭を配置している。

図書購入費も児童・生徒数に応じて分配をして、学校においてどのような本を購入するかという選書等を行っている。それから、文科省が蔵書数の目標を定めている「学校図書館図書標準」というものがある。学級数と図書蔵書冊数の関係で、学級数掛ける蔵書数でいくら蔵書数がないといけないとそういう冊数を決めているのだが、全国平均では小学校が71.2%、中学校が61.1%だけれども、諫早市は小・中学校ともほぼ100%達成している。もちろん足りないところもあり、3校だけが98%程度になっているが、全体で見ると図書標準に対して小・中学校135%ということで、非常に高い水準の蔵書数となっている。

ただ、私がいつも言っていることは、子供たちが情報手段や学びのツールとして読書の意義・高揚に繋がるような図書室であってほしいということと、やはり環境整備である。採光から本のレイアウト、冷暖房の温度調節、読書スペース、貸出と返却の利便性などが大事である。また、最近ではクラスに入れない不登校の子供で、保健室にもなかなか行けない場合などは、図書室をそういった場所に

というのは必要なのかなと思っており、不登校対策の1つとしての図書室の意義というものも考えている。

次に、5番目。九州都市教育長会議に参加をしてきた。長崎県から12名の都市教育長が参加した。12名の方といろいろ話をしたり、発表を聞いたり、また、懇親会もあったので、福岡から沖縄まで九州各地から来られている方々と話をしたりして、私自身も非常に勉強になった。今後の教育行政に生かしていきたいというふうに思っている。以上が報告である。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

3点ある。まず、S o c i e t y 5. 0時代に生きる子供たちにとってパソコン端末は大事であるとの説明があったが、もちろん端末を使う力も含めて、ファクトチェックの能力であるとか、情報を自分で素早く選ぶ力であるとか、そういうデジタルシティズンシップの教育も同じぐらい大事だと思うので、そちらの方にも力を入れていけたらなと思った。

2点目は、S o c i e t y 5. 0時代ということもあるが、コロナもありいろいろなことがあって、子供の育ちにおいて「不易と流行」という同じフィールドで語られなければいけないところの“流行”部分にどうしても昨今時間を取られがちだと思う。しかし、“不易”の部分という視点でいくと、資料にある「基礎的・基本的な知識・技能の向上」とか「基本的な学習をおろそかにしない」という視点は、とても素晴らしい視点だなと思った。

主体的な学び、タイム的な学びを意識した授業の中にもう1つ、少子化を迎えて生産人口の減少などもあるので、子供たちがいかに自分の足で立って、自分を律して、将来生きていくかというキャリア教育も同時に意識していくことが大事だと思う。

最後の3点目であるが、「英語のまち諫早プロジェクト」のことにに関して、アセンズ市との相互交流、お互いの中学生を派遣しあうという事業が、多分30年以上前にはあったように聞いている。それが実現できれば嬉しいけれども、教育予算も厳しいところがあると思うので、派遣が難しくてもせつかくインターネット環境が整っているので、アセンズ市の子供たちとインターネットを使った交流をしていくことで、英語に興味を持つきっかけとなり、子供たちの能動的な学びに繋がっていくのではないかなと感じた。

[学校教育課長]

ご意見をしっかり承りたい。特に、2点目の不易の部分で、基礎

的・基本的な知識・技能の上に思考力、判断力、表現力ということが非常に重要なところなので、知識・技能と思考・表現を両輪で学校にも指導していきたいと思う。

また、最後のアセンズ市との交流であるが、インターネットを使った交流という提案をいただいたので、今後活かしていきたい。

[委員]

図書室であるが、基本的には図書室には空調は全部入っている状況なのか。それと、アセンズの話だけれども、国内だと出雲と津山と諫早が同じ規模で交流都市になっているが、アセンズ市が姉妹都市になった経緯を教えていただきたい。

[教育総務課長]

図書室の空調の件であるが、令和元年度に小・中学校にエアコンを設置している。その際に、全ての学校の図書室に設置している。

[学校教育課長]

私も過去のデータを見たが、かなり古いデータでも交流をしていたというデータはあったが、経緯については確認できなかったので、分かり次第お知らせしたい。

《議題》

議案第18号 諫早市中学校部活動在り方等に関する方針について
学校教育課長 説明

《学校教育課長の説明に対する質問・意見》

[委員]

地域のスポーツ少年団にも適用されるようなものなのか。

[学校教育課長]

先ほど説明した休みの日等は、学校部活動に対して規定しているが、社会体育、一般の地域クラブには今のところはない。今後、中体連などの大会に参加できるとなり地域移行が進んでいけば、そこについてもガイドラインを示していきたいと考えている。

[委員]

平日の練習時間は2時間程度で、休日は3時間程度とあるけれども、“程度”というのはどのように考えればよいのか教えてもらいたい。

[学校教育課長]

学校にもよるが、部活動を始める準備から活動として、道具も全部片づけてしまうまでが2時間というところもあれば、準備と片付

けに時間がかかるので2時間枠におさまらず、少し時間がオーバーするということもあるため、「程度」としている。できるだけ最後の片付けまで終わって2時間におさまればと考えている。

原案可決

《教育総務課長の報告》

- 1 令和5年度諫早市教育委員会表彰式について
- 2 令和5年度新任教育委員研修会及び令和5年度長崎県市町村教育委員会研究大会について

《教育総務課長の報告に対する意見・質問》

質問・意見なし

《学校教育課長の報告》

地域スポーツ団体等（地域クラブ活動）の県中体連への参加状況について

《学校教育課長の報告に対する意見・質問》

質問・意見なし

《非公開議事》

議案第19号 令和5年度諫早市教育委員会表彰受賞者の決定について

教育総務課長 説明

削除

原案可決

その他

教育総務課長

- 1 1月定例教育委員会の日程について説明

[委員]

通級指導教室のことについて、本人が通っている学校にない場合には他の学校にということになり、保護者の送り迎えが必要になる。そうすると共働きの家庭は、多分無理だと思う。自治体によっては、指導教室が巡回しているところもあるようだが、諫早市はどうか。

[学校教育課長]

現在、通級指導教室は旧市内の中心に集まっている。旧町地域の通級指導については、おっしゃる通り保護者の送迎が難しいという方もいることを把握しており、今後どのようなあり方が子供たちの教育に一番いいのかを今検討している段階である。

16時30分閉会